

2021 年「地理総合」における喫緊の課題等に関するアンケートの結果と分析

関係者の皆様には、Web アンケートへのご協力ありがとうございました。

昨年 12 月 6 日には「速報」として結果をお知らせしましたが、その後、2022 年 2 月 19 日には日本地理教育学会例会で、結果と分析の第 1 報（同学会『新地理』70 巻 2 号に発表要旨を掲載）、8 月 20 日には同学会第 72 回大会シンポジウムで結果と分析の報告を行いました（概要は『新地理』掲載予定）。

本レポートは、速報を基に上記例会やシンポジウムでの発表資料を加え、Web アンケートの集計結果とその分析報告をお伝えします。

2022 年 4 月からは、すでに全国の多くの学校で「地理総合」が開講され、学習が始まっていますが、今後その指導の一層の充実と支援に向けて、本レポートをお役立ていただければ幸いです。

2022 年 9 月

日本地理学会地理教育専門委員会
日本学術会議地理教育分科会
web アンケート担当

I. Web アンケートの概要と回答状況

1. アンケートの概要

- 実施主体 日本学術会議地理教育分科会・日本地理学会地理教育専門委員会
- 実施時期 2021 年 10～11 月[新教育課程確定及び教科書採択が終了した時期]
- 調査対象 全国の高校地理歴史科・公民科教員
- 目 的 実施直前, 実施後における継続的な支援・研修体制の構築と充実
- 主な調査内容 ・「地理総合」中項目ごとの授業イメージ・喫緊に必要な支援や情報及び授業全体に関わって必要な事柄
・地理歴史・公民科の新教育課程
・各科目の設置の有無と履修年次, 地理総合担当者, 地理歴史・公民科教員構成
・「地理総合」教科書採択状況
・勤務校 ICT 環境 など

※アンケート本文や中間報告 I・II(10 月 10 日・11 月 7 日時点), 結果速報(11 月 30 日時点)は、日本地理学会地理教育専門委員会 HP に掲載。

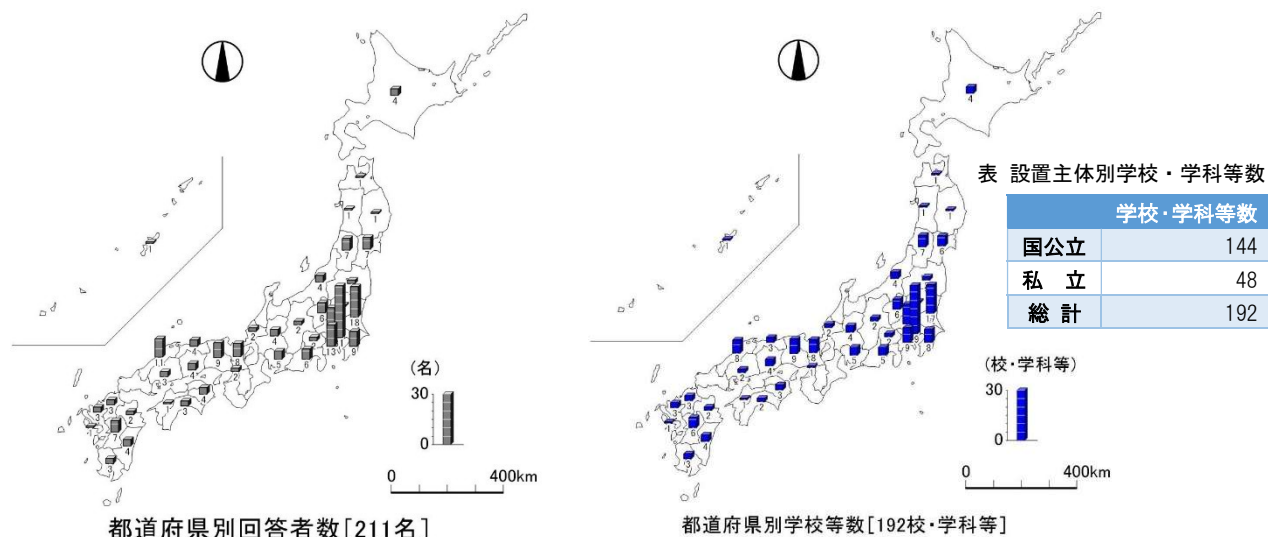
URL:<https://www2.dokkyo.ac.jp/rese0018/>

2. 回答状況

□回答数 回答者数：211 件(名) ※回答総数 213 件から中学校・大学関係者各 1 件の回答を除外
 学校・学科等数：192 校・学科等 ※校名等の無記名回答を除外。学校・学科等の重複は 1 校・学科としてカウント

□回答者・学校等の分布

- 回答者，学校・学科等は全国 39 都道府県に分布。0 件は、富山・石川・三重・滋賀・和歌山・奈良・山口・香川県



□回答者の専門分野・教職経験(非常勤を含む)年数別の状況

- 主に「地理」専門の教員が 86%。

うち教職経験年数(非常勤含む)「20 年以上」45%(回答者全体では 39%)。

表 専門分野別・教職経験年数別回答者数

教職経験年数 専門	5 年 未満	5 年- 9 年	10 年 -19 年	20 年 以上	総 計
地 理	26	21	52	82	181
歴 史	4		7	7	18
公 民	3	1	3	5	12
総 計	33	22	62	94	211

Ⅱ. 集計結果と分析

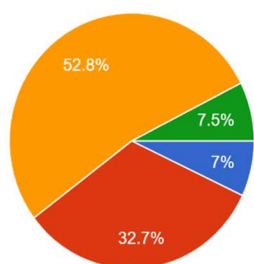
1. 内容の中項目ごとの授業イメージと喫緊の課題

1) 内容 A(1)地図や地理情報システムと現代世界

①授業イメージ

◇全体

- 半数が、「生徒が，ICT 機器などを使って地図や GIS について作業する活動が主になる授業」をイメージ



- 教員が、教科書の記述をもとに地図やGISについて講義する活動が主になる授業
- 教員が、ICT機器などを使って地図やGISについて示範する活動が主になる授業
- 生徒が、ICT機器などを使って地図やGISについて作業する活動が主になる授業
- まだよく分からない

⇒ ● 講義型
● 示範型
● 生徒活動型 の3 類型を設定
● 未定

◇専門別

➤ 地理・歴史・公民のいずれも、生徒活動型の授業をイメージ

授業イメージ 専門	講義型	示範型	生徒活動型	未定	総計
地 理	11(6.1)	66(36.5)	93(51.4)	11	181
歴 史	2	1	12	3	18
公 民	2	3	6	1	12
総 計	15(7.1)	70(33.2)	111(52.6)	15	211

◇教職経験年数別

➤ いずれの階層でも、生徒活動型の授業をイメージ

授業イメージ 教職経験年数	講義型	示範型	生徒活動型	未定	総計
5 年未満	3	14	15	1	33
5～9 年	1	5	14	2	22
10～19 年	2	23	31	6	62
20 年以上	9	28	51	6	94
総 計	15(7.1)	70(33.2)	111(52.6)	15	211

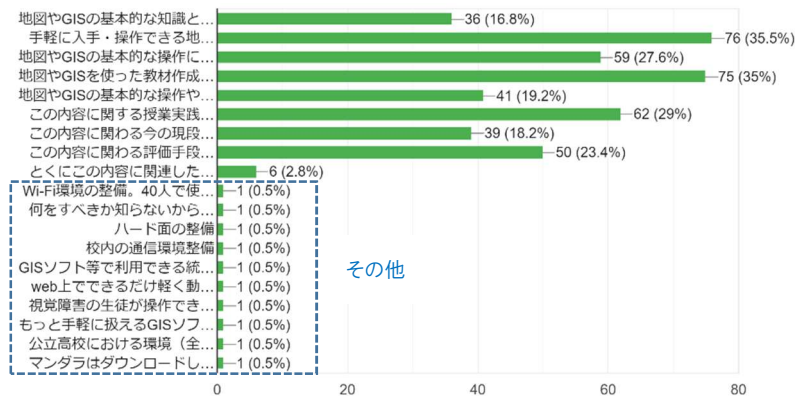
②喫緊の課題と支援(2 つまで選択)

◇全体

➤ 3 人に 1 人が、「手軽に入手・操作できる地図や GIS の種類とその入手先などに関する情報提供」と「地図や GIS を使った教材作成に関する実践的な研修」の必要性を感じている。

- 地図や GIS の基本的な知識とその入手先などに関する情報提供
- 手軽に入手・操作できる地図や GIS の種類とその入手先などに関する情報提供
- 地図や GIS の基本的な操作に関する実践的な研修
- 地図や GIS を使った教材作成に関する実践的な研修
- 地図や GIS の基本的な操作や教材作成に関する YouTube などネット上の研修動画
- この内容に関する授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他(記述欄)

⇒ ● 地図・GIS の基礎情報
● 地図・GIS の研修
● 授業づくり(授業事例)・評価
● 入試の情報 の4 類型を設定

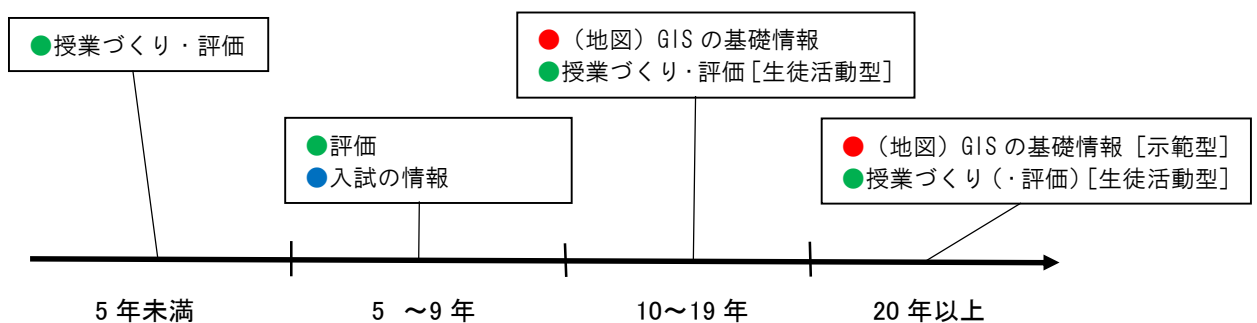


◇専門別

- 授業で使える GIS に関わる情報：GIS の種類
- GIS を活用した授業づくり（授業事例）・評価方法等に関わる情報
- GIS の教材作成に関する研修



◇教職経験年数別

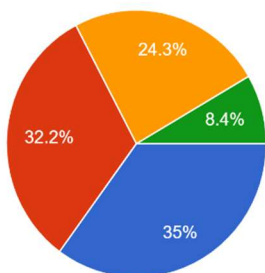


2) 内容 B(1)生活文化の多様性と国際理解

①授業イメージ

◇全体

➤ 3人に1人が、「世界各地の生活文化について講義する活動が主になる授業」をイメージ



- 教員が、教科書の記述をもとに世界各地の生活文化について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、世界各地の生活文化の内容を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、世界各地の生活文化を調べ、国際理解の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

⇒ ● 講義型

● 生徒発表型

● 生徒追究型 の3類型を設定

◇専門別

- 地理・公民では講義型の授業を、歴史では生徒発表型の授業をイメージ

授業イメージ 専門	講義型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総計
地 理	66 (36.5)	53 (29.3)	48 (26.5)	14	181
歴 史	3	11	1	3	18
公 民	6	4	2	0	12
総 計	75 (35.5)	68 (32.2)	51 (24.2)	17	211

◇教職経験年数別

- 5～9 年を除いた階層で、講義型の授業をイメージ

授業イメージ 教職経験年数	講義型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総計
5 年未満	13	11	5	4	33
5～9 年	4	8	9	1	22
10～19 年	23	20	13	6	62
20 年以上	35	29	24	6	94
総 計	75 (35.5)	68 (32.2)	51 (24.2)	17	211

②喫緊の課題と支援(2 つまで選択)

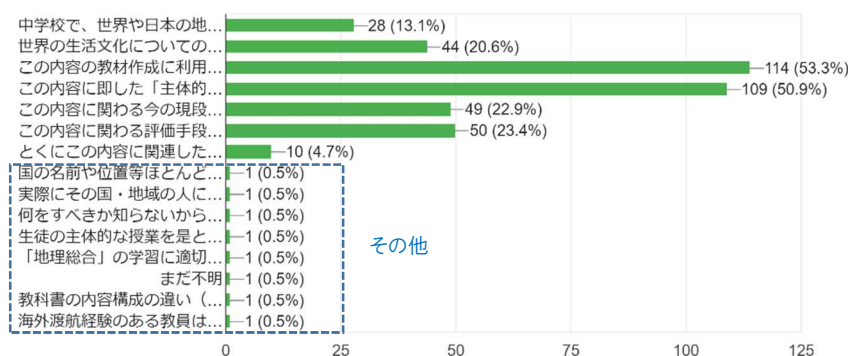
◇全体

- ほぼ半数が、「教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供」と「『主体的・対話的で深い学び』の授業実践例とその入手先などに関する情報提供」の必要性を感じている。

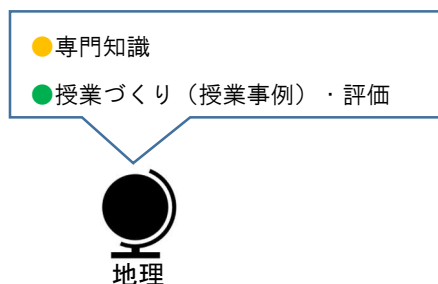
- 中学校で、世界や日本の地誌について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 世界の生活文化についての様々な知識とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他(記述欄)

⇒ ● 中学校授業の情報

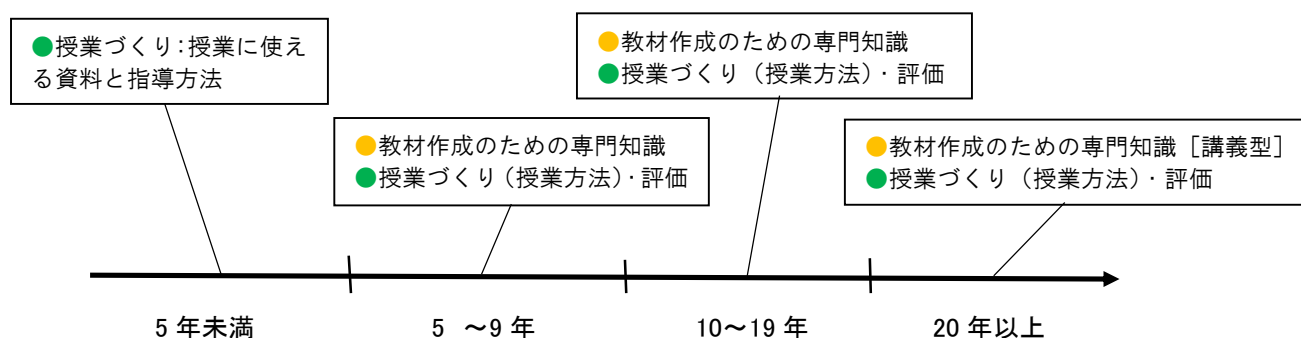
- 専門知識
 - 授業づくり(授業事例)・評価
 - 入試の情報
- の 4 類型を設定



◇専門別



◇教職経験年数別

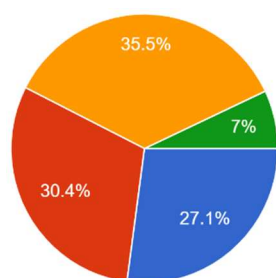


3) 内容 B(2) 地球的課題と国際協力

①授業イメージ

◇全体

- 3人に1人が、「生徒が地球的課題を調べ、国際協力の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業」をイメージ



- 教員が、教科書の記述をもとに地球的課題について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、地球的課題と国際協力の現状を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、地球的課題を調べ、国際協力の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

⇒ ● 講義型

● 生徒発表型

● 生徒追究型 の3類型を設定

◇専門別

- 地理・公民では生徒追究型の授業を、歴史では生徒発表型の授業をイメージ

授業イメージ 専門	講義型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総計
地 理	53(29.3)	52(28.7)	65(35.9)	11	181
歴 史	2	10	3	3	18
公 民	3	3	6	0	12
総 計	58(27.5)	65(30.8)	74(37.1)	14	211

◇教職経験年数別

- 5 年未満では生徒発表型の授業、それ以外の階層では生徒追究型の授業をイメージ。
ただし、どの階層でも、一定数は講義型の授業をイメージ

授業イメージ 教職経験年数	講 義 型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総 計
5 年未満	6	13	11	3	33
5～9 年	3	7	11	1	22
10～19 年	21	17	19	5	62
20 年以上	28	28	33	5	94
総 計	58 (27.5)	65 (30.8)	74 (37.1)	14	211

②喫緊の課題と支援(2 つまで選択)

◇全体

- 2 人に 1 人が、「教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供」と「『主体的・対話的で深い学び』の授業実践例とその入手先などに関する情報提供」の必要性を感じている。

- 中学校で、地球的課題について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 地球的課題やその解決のための国際協力に関わる最近の動向とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画、統計資料とその入手先などに関する情報提供
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の授業実践例とその入手先に関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他(記述欄)

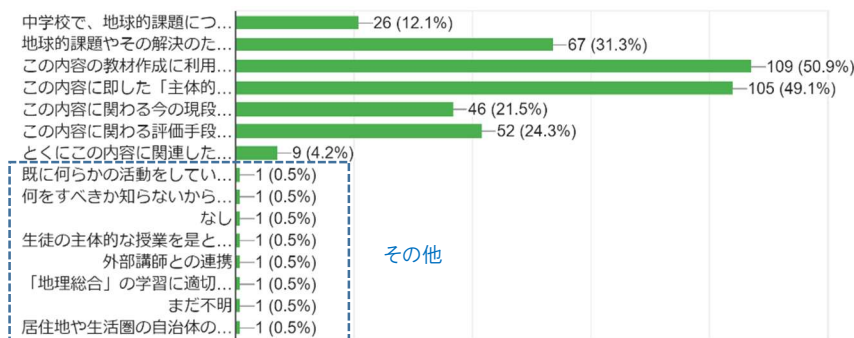
⇒ ● 中学校授業の情報

● 専門知識

● 授業づくり(授業事例)・評価

● 入試の情報

の 4 類型を設定



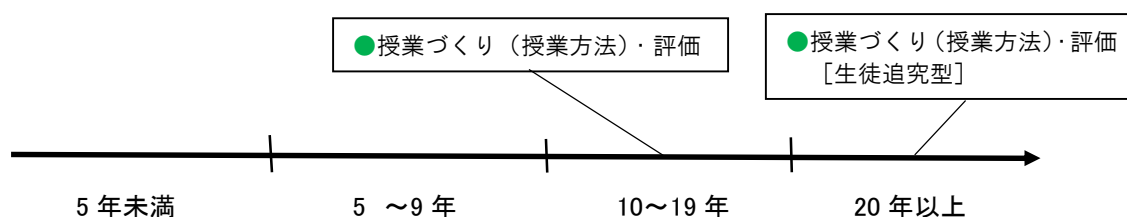
◇専門別

● 授業づくり(授業方法)・評価

● 授業づくり(授業方法)・評価



◇教職経験年数別

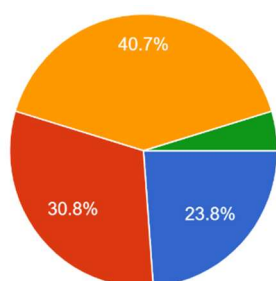


4) 内容 C(1)自然環境と防災

①授業イメージ

◇全体

- ほぼ半数が、「生徒が世界や日本の自然災害を調べ、防災の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業」をイメージ



- 教員が、教科書の記述をもとに自然環境について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、世界や日本の自然災害や防災対策を調べたり、発表したりする活動が主になる授業
- 生徒が、世界や日本の自然災害を調べ、防災の視点から課題を設定して、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

⇒ ● 講義型

● 生徒発表型

● 生徒追究型

の 3 類型を設定

◇専門別

- 専門ごとに異なるが、いずれも生徒が主体の授業(生徒発表型+生徒追究型)をイメージ

授業イメージ 専門	講 義 型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総 計
地 理	47(26.0)	48(26.5)	72(39.8)	7	181
歴 史	2	11	2	3	18
公 民	2	6	4	0	12
総 計	51(24.2)	65(30.8)	85(40.3)	10	211

◇教職経験年数別

- いずれの階層でも、生徒追究型の授業をイメージ

授業イメージ 教職経験年数	講 義 型	生徒発表型	生徒追究型	未定	総 計
5 年未満	8	11	12	2	33
5～9 年	5	6	11	0	22
10～19 年	12	22	26	2	62
20 年以上	26	26	36	6	94
総 計	51(24.2)	65(30.8)	85(40.3)	10	211

②喫緊の課題と支援(2 つまで選択)

◇全体

- ほぼ半数が、「地域の事例を使った自然災害や防災対策の教材作成に関する実践的な研修」と『主体的・対話的で深い学び』の授業実践例とその入手先などに関する情報提供」の必要性を感じている。

- 中学校で、自然環境や自然災害について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 自然環境や自然災害の基本的な知識とその入手先などに関する情報提供
- この内容の教材作成に利用できる画像や動画とその入手先などに関する情報提供
- 地域の事例を使った自然災害や防災対策の教材作成に関する実践的な研修
- この内容に即した「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)」の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他(記述欄)

⇒ ● 中学校授業の情報

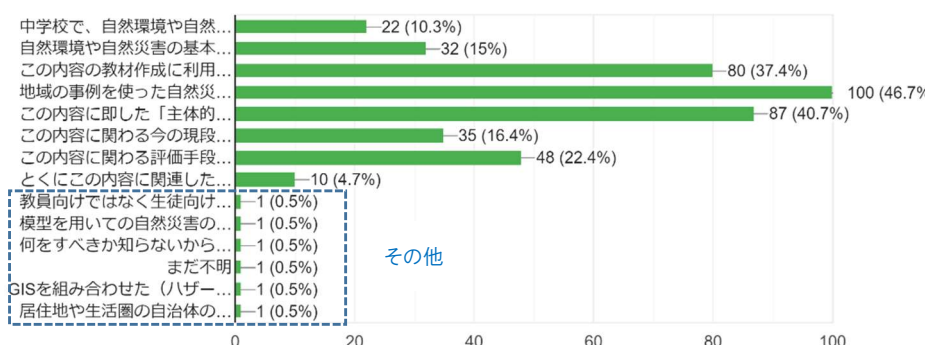
● 専門知識

● 地域教材開発の研修

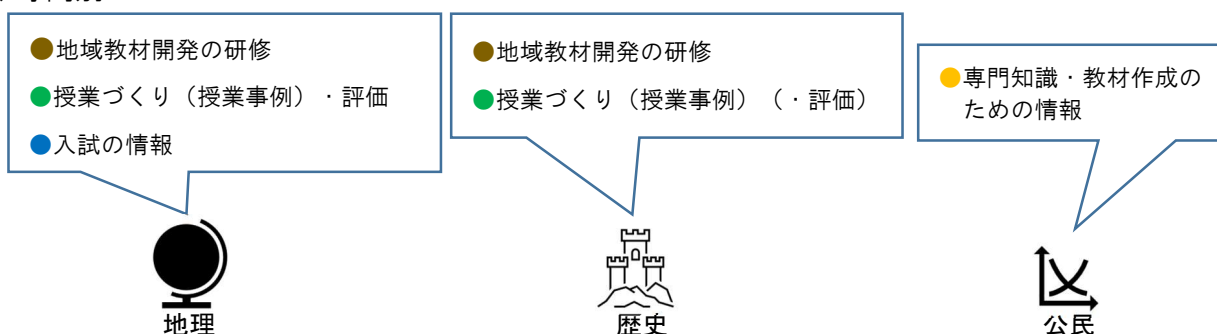
● 授業づくり(授業事例)・評価

● 入試の情報

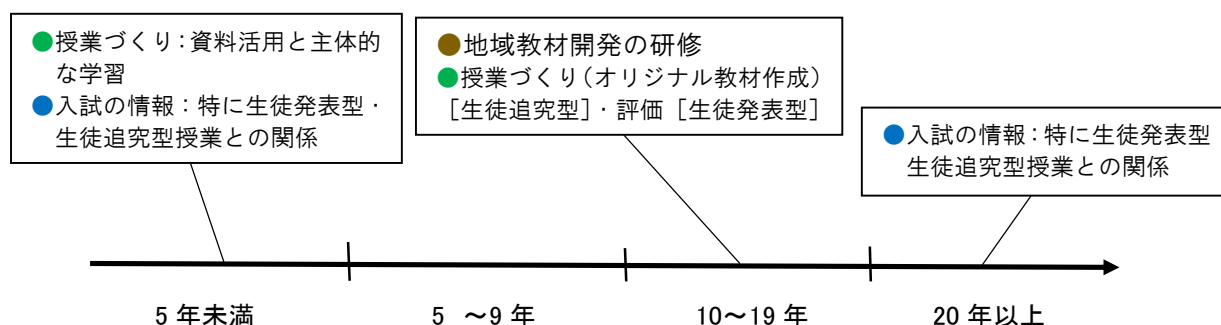
の 5 類型を設定



◇専門別



◇教職経験年数別



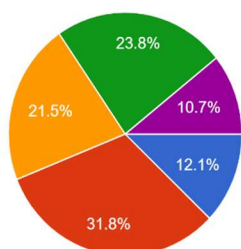
5) 内容 C(2)生活圏の調査と地域の展望

①授業イメージ

◇全体

- ほぼ二人に一人が、生徒が文献やインターネットから得られる統計資料などを使って地域を調べ、発表する活動が主になる授業をイメージ

- 教員が、教科書の記述をもとに地域調査の内容や方法について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、文献やインターネットから得られる統計資料などを使って地域を調べ、発表する活動が主になる授業
- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、発表する活動が主になる授業
- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、持続可能な地域づくりの視点から課題を設定し、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない



- 教員が、教科書の記述をもとに地域調査の内容や方法について講義する活動が主になる授業
- 生徒が、文献やインターネットから得られる統計資料などを使って地域を調べ、発表する活動が主になる授業
- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、発表する活動が主になる授業
- 生徒が、文献調査やフィールドワークを行って地域を調べ、持続可能な地域づくりの視点から課題を設定し、それを追究する活動が主になる授業
- まだよく分からない

⇒●講義型

●生徒発表型

●フィールドワークを実施する生徒発表型

●フィールドワークを実施する生徒追究型

の4類型を設定

◇専門別

- ▶ 専門に関わらず、多くの回答者が、生徒が主体の授業をイメージ。ただし、フィールドワークの実施は必ずしも多くない。他の中項目に比べて「未定」の回答が少なくない。

授業イメージ 専門	講義型	生徒発表型	FW+ 生徒発表型	FW+ 生徒追究型	未定	総計
地 理	20 (11.0)	59 (32.6)	37 (20.4)	46 (25.4)	19	181
歴 史	2	6	5	1	4	18
公 民	3	3	3	3	0	12
総 計	25 (11.8)	68 (32.2)	45 (21.3)	50 (23.7)	23	211

◇教職経験年数別

- ▶ 階層を問わず、生徒が主体の授業をイメージ。10～19年、20年以上の階層では、講義型の授業をイメージしている回答者が少なくない。

授業イメージ 教職経験年数	講義型	生徒発表型	FW+ 生徒発表型	FW+ 生徒追究型	未定	総計
5年未満	3	10	11	5	4	33
5～9年	1	6	4	9	2	22
10～19年	8	23	12	12	7	62
20年以上	13	29	18	24	10	94
総 計	25 (11.8)	68 (32.2)	45 (21.3)	50 (23.7)	23	211

②喫緊の課題と支援(2つまで選択)

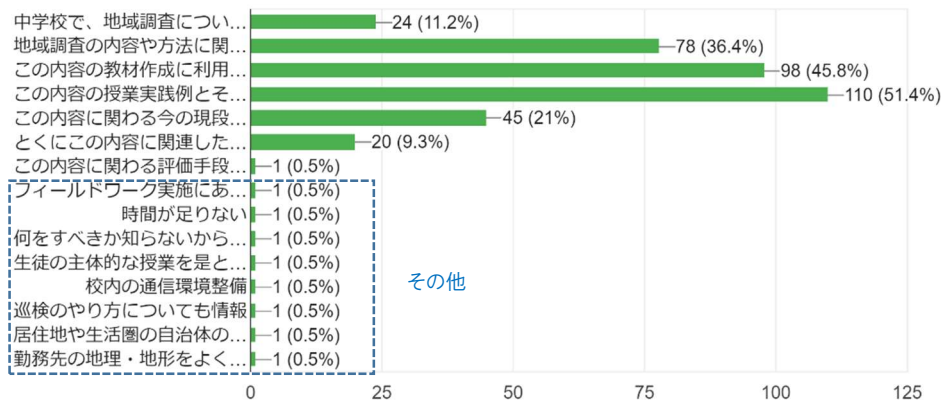
◇全体

- ▶ ほぼ半数が、「実践的な授業実践例とその入手先などに関する情報提供」と「教材作成に利用できる地域の統計資料などとその入手先に関する情報提供」の必要性を感じている。

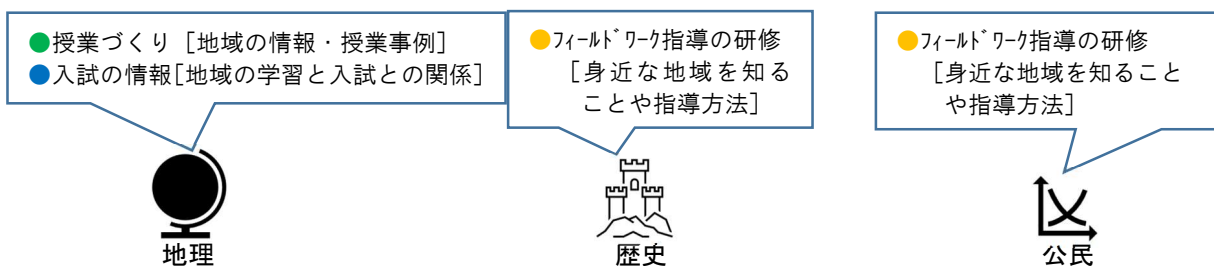
- 中学校で、地域調査について学ぶ授業の内容とその入手先などに関する情報提供
- 地域調査の内容や方法に関する実践的な研修
- この内容の教材作成に利用できる地域の統計資料などとその入手先に関する情報提供
- この内容の授業実践例とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる今の現段階での大学等入試問題の内容とその入手先などに関する情報提供
- この内容に関わる評価手段・方法とその入手先などに関する情報提供
- とくにこの内容に関連した支援の必要は感じていない。
- その他(記述欄)

- ⇒ ● 中学校授業の情報
 ● フィールドワーク指導の研修
 ● 授業づくり(授業事例)・評価
 ● 入試の情報

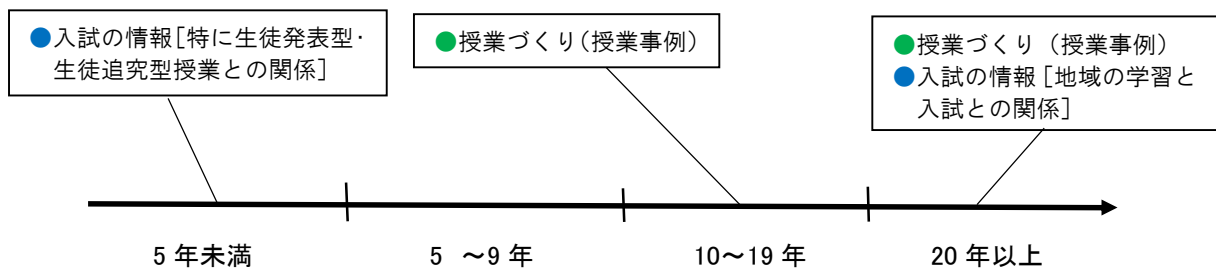
の 4 類型を設定



◇専門別

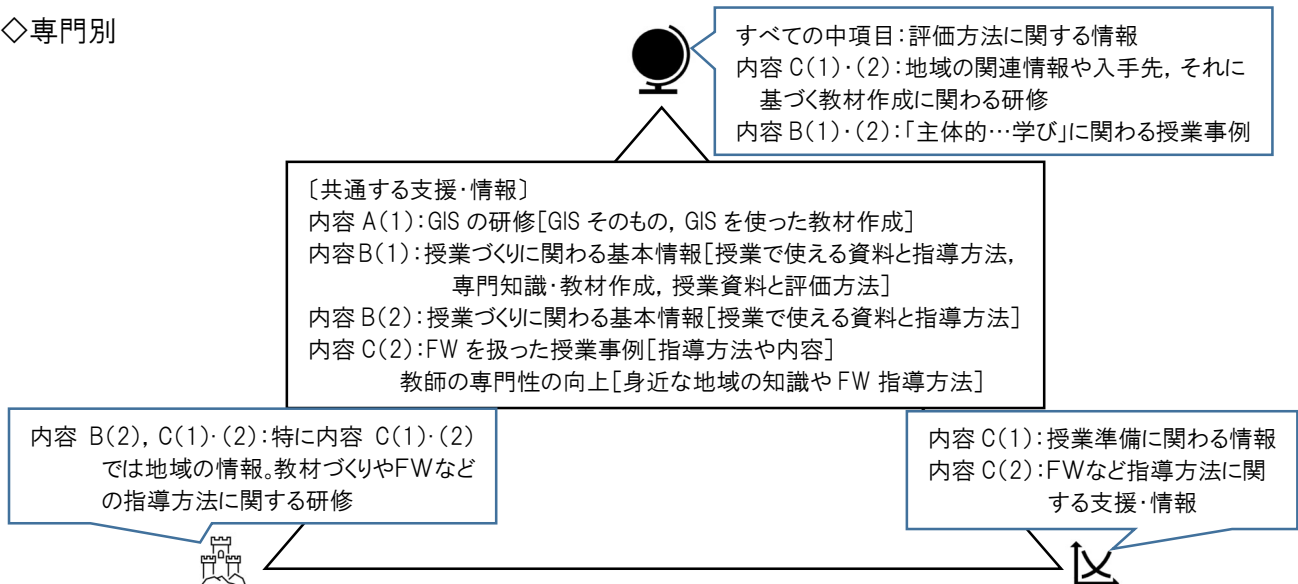


◇教職経験年数別

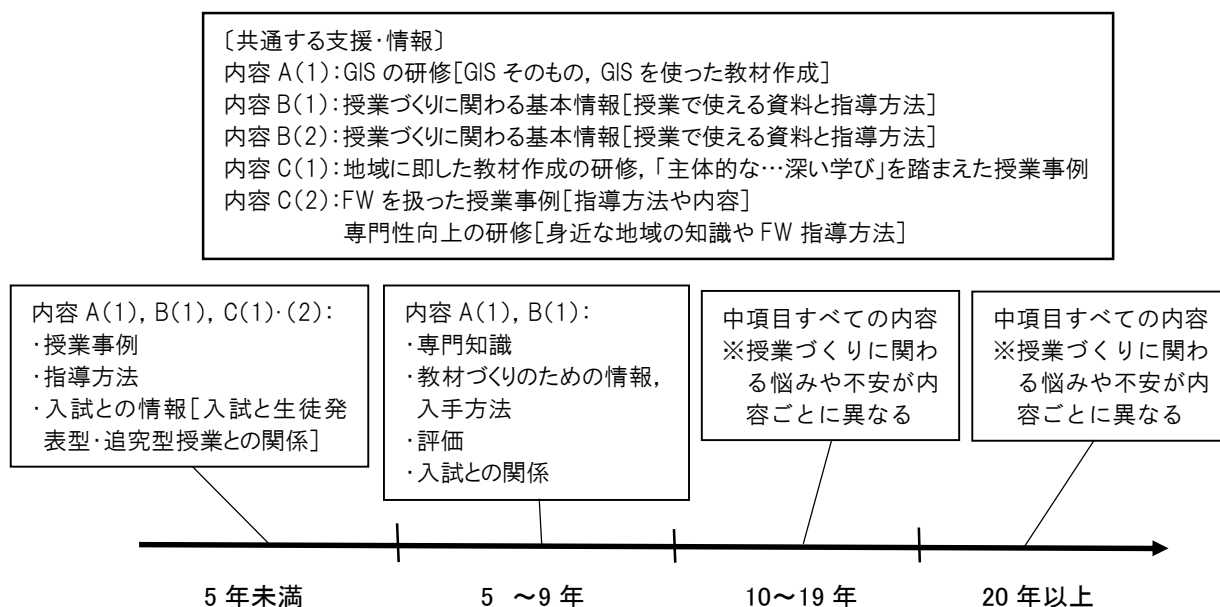


6) 専門別・教職経験年数別でみた喫緊の課題と支援のまとめ

◇専門別



◇教職経験年数別



2. 地理歴史・公民科の新教育課程

1) 地歴・公民科目の設置状況・履修学年(年次)

- 「地理総合」の履修学年は、1 学年(年次)59.9%, 2 学年(年次)35.4%, 3 学年(年次)以上 6.3% (192 校・学科等に占める割合)

表 地理歴史・公民科の設置状況と履修学年(年次) ()は 192 校・学科等に占める割合

	1 学年(年次)	2 学年(年次)	2/3 選択・分割	3 学年(年次)以上	非設置
地理総合	114(59.6)	68(35.4)	—	12(6.3)	—
地理探究	1(0.5)	14(7.3)	66(34.4)	78(40.6)	33(17.2)
歴史総合	143(74.5)	41(21.4)	—	12(6.3)	—
日本史探究	0(0.0)	35(18.2)	95(49.5)	40(20.8)	22(11.5)
世界史探究	0(0.0)	34(17.7)	92(47.9)	39(20.3)	27(14.1)
公 共	89(46.4)	103(53.6)	—	—	—
政治・経済	1(0.5)	17(8.9)	10(5.2)	146(76.0)	28(14.6)
倫 理	0(0.0)	8(4.2)	8(4.2)	97(50.5)	79(41.1)

※表中の「2/3 選択・分割」は、2/3 学年(年次)で選択または分割履修

※単位制のため履修年次が指定されていない学校があるため、各科目の合計は必ずしも 192 校・学科等にはならない。

◇「地理探究」非設置の理由

- 非設置 33 校・学科等のうち、約 60%は、「他教科・他科目との関係で教育課程に余裕がないこと」が主な理由

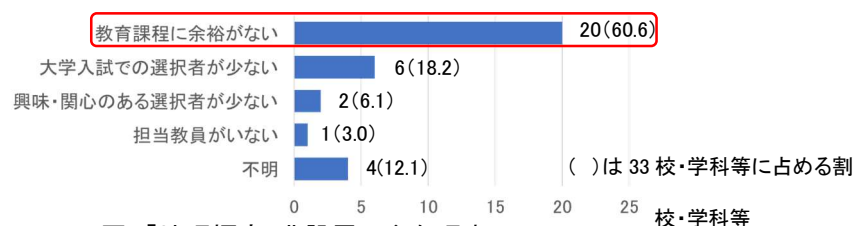


図 「地理探究」非設置の主な理由

2) 「地理総合」担当者

- 192 校・学科等のうち、約 60%は、少なくとも 1 人は地理を専門とする中堅以上(教職経験 10 年以上)の教員が担当を予定

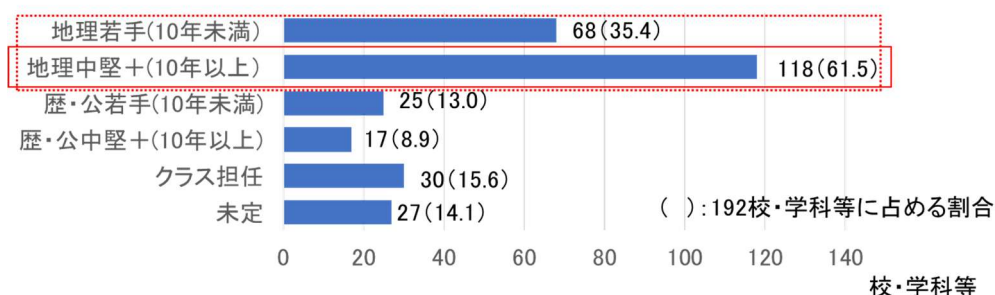


図 「地理総合」の担当者

3) 地理歴史・公民科の教員構成

- 192 校・学科等のうち、約半数は、地理を専門とする教員が 0 または 1 人

表 地理歴史・公民科の教員構成

専門	0人	1人	2～4人	5人以上
地 理	8(4.2)	83(43.2)	98(51.0)	3(1.6)
歴 史	8(4.2)	13(6.8)	128(66.7)	43(22.4)
公 民	25(13.0)	66(34.4)	93(48.4)	8(4.2)

3. 「地理総合」の教科書採択

1) 採択状況

- 調査時点で、192 校・学科等のうち、1 学年(年次)設置校・学科等を中心に、130 校・学科等で採択教科書が決定

表 「地理総合」教科書採択状況 ()は 130 校・学科等に対する割合

教科書	学校・学科等数 (割合)	参考資料(採択冊数及び総需要数に対する割合)
701東京書籍 『地理総合』	20 (15.4)	108,200 (17.5)
702実教出版 『地理総合』	2 (1.5)	19,151 (3.1)
703帝国書院 『新地理総合』	70 (53.8)	347,868 (56.4)
704二宮書店 『地理総合』	22 (16.9)	58,845 (9.5)
705二宮書店 『わたしたちの地理総合』	9 (6.9)	49,137 (8.1)
706第一学習社 『地理総合』	7 (5.4)	33,537 (5.4)

※参考資料欄は、各教科書の 2022 年度採択冊数及び総需要数 616,738 冊に対する割合(『内外教育』2022 年 2 月 15 日号より)

2) 採択理由と経緯

①主な採択理由

- 採択教科書決定 130 校・学科等のうち、主な採択理由は、「生徒の興味・関心を高める内容」が最も多く、「学習指導要領の趣旨を反映した内容」も多いが、教える側からみた「[地理教員以外を含む]教員が教えやすい内容」、「従来の指導方法等を継続可能な内容」も少なくない

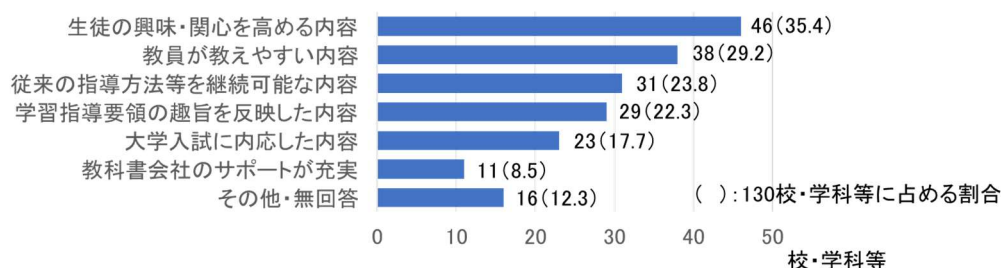


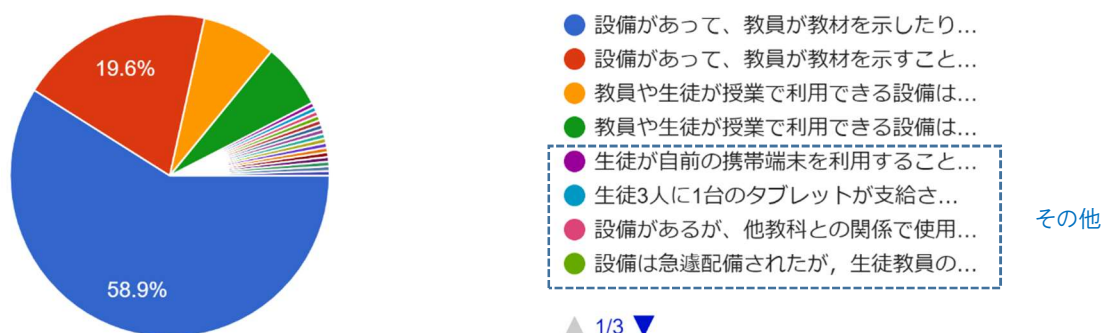
図 「地理総合」教科書の主な採択理由

②採択の経緯

- 採択教科書決定 130 校・学科等のうち、主な採択の経緯は、ほとんどの学校・学科等で「地理専門教員の意見をもとに採択」(88.5%)。回答数は少ないが「地理専門教員がいるが歴史・公民専門教員の意見をもとに採択」、「地理専門教員がおらず歴史・公民専門教員の意見をもとに採択」、「教科全体で協議」、など回答も。

4. ICT 設備・機器の整備状況 ※学校・学科等ではなく、回答者数

- 192 校・学科等のうち、80%程度の学校・学科等で、「地理総合」を実施する上である程度の ICT 環境は整っており、60%程度は「教員の教材提示や生徒の学習活動に使用可能」、20%程度は、「教員の教材提示に使用可能」な状況
- 一方、調査時点で 15%程の学校・学科等では、ICT 環境が未整備の状況で、そのうち半数は今後も整備予定がないと回答
- また、●GIGA スクール構想で整備されたタブレットの扱いや他教科との PC 室利用の調整など、校内での ICT 運用システムについての障壁があること、●インターネット接続環境の未整備、●教員や生徒の ICT スキルが追いついていないなどの課題の指摘も。

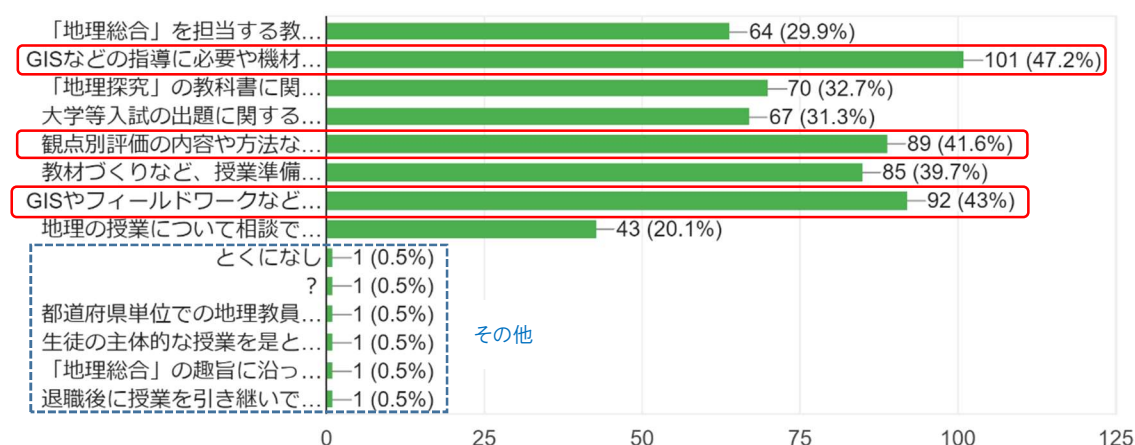


5. 授業全体に関わる喫緊の課題と支援(3つまで選択)

◇全体

➤「GISなどの指導に必要な機材や設備の整備」と「GISやフィールドワークなどの作業的・体験的学習に必要な授業時間の確保」、「観点別評価の内容や方法などに関する情報提供」の必要性を感じているとの回答が、それぞれ半数近くを占める。

- 「地理総合」を担当する教員の確保
- GISなどの指導に必要な機材や設備の整備
- 「地理探究」の教科書に関する情報提供(構成や内容)
- 大学等入試の出題に関する情報提供(国公立二次・私大での出題や問題の内容など)
- 観点別評価の内容や方法などに関する情報提供
- 教材づくりなど、授業準備に充てる時間の確保
- GISやフィールドワークなどの作業的、体験的学習に必要な授業時間の確保
- 地理の授業について相談できる同僚や専門家などの相談相手
- その他(記述欄)



6. 自由記述からみる教員の抱える問題、研修・支援希望